氷見市長　本川　祐治郎殿

陳　情　書

平成25年6月

藪田地区自治会

区長　矢代　政則

小杉地区自治会

区長　廣瀬　達之

泊地区自治会

区長　高野　博隆

謹啓

初夏の侯、ますますご清栄の段お喜び申し上げます。

平素、氷見市政発展のため、日夜ご努力いただいている姿を拝し、深く敬意を表するとともに感謝申し上げる次第でございます。

我々地区住民も市政発展のため、微力ながらご協力申し上げるとともに、市政のさらなる飛躍を期待してやみません。

つきましては、地区住民の命とくらしを守り、よりよい地域社会作りのため、下記事項の要望を申し上げますので、財政事情の厳しい折りとは存じますが、是非とも要望通り対処していただきますようお願い申し上げます。

謹白

行政要望事項

国道160号線の区間（小杉地内：民宿「青柳」下近辺～泊地内：泊コミュニティーセンター近辺間＊）の改修（急カーブ箇所の直線化工事）の実施　　＊添付地図参照

1．経緯

国道160号線は、能越自動車道が灘浦インターチェンジまで開通したものの、小杉、泊地区住民にとって唯一の生活道路であることに変わりはありません。かねてより、薮田3地区自治会（薮田、小杉、泊）は地区の安全と安心を第一に考え、地区住民の命とくらしを守り、より良い地域社会作りをしていくため、「薮田トンネルから旅館うみあかり（宇波地区）まで」の区間の国道160号線整備（道路とトンネルの拡幅、歩道整備、等）を強く要望してきましたが、部分的な整備はしていただいたものの、急カーブ箇所をはじめまだまだ危険箇所区間が残っております。

今回、改修を要望している対象区間では、過去には、以下に記すような死亡事故、接触事故、および事故には至らないヒヤリハットが幾つも発生しています（下記する★印の様な事例）。このままでは、今後も、いつ何時、同種の事故やヒヤリハットが発生するか判りません。このように、地区住民は、常に身の危険を感じながら、不安な思いを抱いて

日々の生活を送っています。

前記の通り、各機関（国道交通省、氷見市役所、等）にその対策を要望してきておりますが、いまだ根本的な対策には至っておりません。

2．具体的な要望事項

この区間は、添付の地図で示すように、国道160号線が両地区内を貫通（通り抜け）していて、小杉、泊地区住民にとって、生活に密着した区間であります。このうち、泊地区内では、急カーブ箇所があり、民家等の建物が国道沿いに迫っていることもあって、国道の南北方面からの見通しが悪く、自動車や自転車の走行や人の歩行にも大変危険な箇所になっています。更に、道路幅が狭く、歩道が無い箇所もあることから、泊地区内では国道を横断するにあたって、自動車が通り過ぎるのを待っている間にも事故の危険を感じています。

地区の安全と安心を第一に考え、地区住民の命とくらしを守り、より良い地域社会作りをしていくため、早急に当区間の改修（急カーブ箇所の直線化工事）に取り組んで頂くことを、再度要望いたします。

以上

★『当該国道区間近辺での死亡事故、接触事故、および事故には至らないヒヤリハット事例』

1．死亡事故

1）小杉地区住民（7年程前）

2）宇波地区住民（22年程前）

＊氷見方面から来た自動車が急カーブを曲がりきれず、濵元家の塀垣に激突した自損、死亡事故

3）泊地区住民（40年程前）

4）小杉地区住民（45年程前）

＊1）、3）、4）はいずれも地区住民が要望対象区間で巻き込まれた死亡事故であり、悲しい出来事として、いまだに強く記憶されています。

2．接触事故、自損事故、など

1）氷見方面から来た自動車が国道から泊地区内に入るため、左折しようとしていたところ、後方から来た自動車に追突された追突事故（H24．12頃）

2）氷見方面から来た乗用車が急カーブを曲がりきれず、坂下家の塀垣に激突した自損事故（H24．11頃）

3）自動車で泊地区から国道に出ようとしたとき、灘浦方面から来た自動車と接触した接触事故（H17．5頃）

など

3．ヒヤリハット（地区住民からのインタビューによる）

1）自動車で泊地区から国道へ出ようとしたとき、灘浦方面から来た中、高生の自転車とあわや接触事故になりそうになった。（数人から、同意見あり）

2）泊地区で、歩いて国道を横断しようとして立ち止まって、自動車が通過していくのを待っていると、氷見方面から走ってくる自動車がこちらに向かって来るようで、非常に恐ろしい目にあった。（数人から、同意見あり）

3）泊地区から、真常寺、民宿磯波風、等、灘浦方面へ歩いて行こうとすると、濵元家前から泊コミュニティーセンター裏手の区間は歩道が無いに等しく、氷見方面から来る自動車に撥ねられそうになった。（数人、特に、年配者から、同意見あり）

同時に、自動車の運転手も歩行者の安全に対して、非常に気を使って運転することになり、神経を使う箇所となっている。

など

4．その他

1）2年後を目途に中学校の統廃合が見込まれており、灘浦方面からの生徒の多くは自転車通学をします。この区間の危険性は益々増してきます。

2）能越自動車道（氷見北IC～灘浦IC）開通後、最近の国交省の調査では、この区間を通行する大型車の交通量は約600台／日となっており、この区間を大型車が頻繁に通行していることに変わりはありません。

3）大型車の運転手へのインタビューでも、「国道160号はカーブが多く、道路幅員が狭い箇所が多く、危険を感じている」との報告がされています。これを裏付けるかのように、藪田トンネル内には、大型車によるトンネル壁面への接触痕跡が数多く残っています。また、これらの区間では、センターラインからのはみ出し運転も多くあるため、乗用車の運転手や自転車の利用者、歩行者などは大型車の運転手が感じる以上の「危険」を常に感じながら通行しています。